

今後の ESD 推進ネットワークの推進方策についての検討について  
(これまでの意見交換から)  
(案)

ESD 活動支援センター  
2020 年 3 月 (予定)

ESD 企画運営委員各位におかれては、本資料に対するご意見や追加すべきポイント等についてご意見をお寄せください。テキスト内にコメントや変更履歴の形でお寄せいただくかあるいは添付のフォーマットをお使いください。

お忙しいところ恐縮ですが、3 月 17 日 (火) までにメールにてご回答お願いいたします。  
ESD 活動支援センター [contact@esdcenter.jp](mailto:contact@esdcenter.jp)

ESD 活動支援センターは、「ESD 活動推進ネットワークの成果概要 (2016－2019)」(以下「成果概要」)に取りまとめた ESD 推進ネットワークの成果と課題を踏まえ、ESD for 2030 の国内実施を念頭に今後の ESD 推進ネットワークの更なる展開のために以下のような機会に指導助言をいただき、また、意見交換を行う機会をもってきた。

- ① ESD 活動支援企画運営委員会
- ② ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2019
- ③ ESD 活動支援センター (全国・地方) 連絡会

本資料は、それらの機会において主要な論点となった以下の項目に関する指導助言・意見交換のポイントを、ESD 推進ネットワークの今後の方向性についての検討のためにまとめたものである。

論点 1. ESD 推進ネットワークの目的

論点 2. ESD 推進ネットワークのターゲティングとアプローチ方法

その他の指摘事項

なお、ESD 推進ネットワークの整備は、「ESD 推進ネットワークの構築に向けて」(2016 年 3 月、ESD 活動支援企画運営準備委員会、文部科学省、環境省、以下「構築に向けて」)を基本として、今後も進められるものである。

## 論点 1. ESD 推進ネットワークの目的 (注 1)

ESD for 2030 の前半にあたる今後概ね 5 年間を見据えた「ESD 推進ネットワークの目的」に関する意見交換のポイントとして以下が挙げられた。

### 期間 (案)

- ESD for 2030 のカバーする 2030 年までを意識しつつ、今後概ね 5 年間を想定して目的を検討する。

### 内容

- ESD for 2030 では、生涯学習の視点から学校教育だけでなくノンフォーマル教育・インフォーマル教育において学習者に行動変革を生み出していくこと、現在の産業および生産様式パターン・社会システムの構造的変更に、科学技術の進歩した未来への対応の 3 点を重要事項として掲げていることを意識する必要がある。
- 「ESD を推進する」ことを目的として ESD を広め、深めてきた ESD 推進ネットワークのこれまでの活動の蓄積を活用して、SDGs の考え方に基づく地域・社会・世界の課題解決に教育・人材育成をとおして具体的に貢献していくことに、ネットワークの目的をシフトする必要がある。

### 今後の議論のための「目的」たたき台 (案)

- 今後概ね 5 年間の ESD 推進ネットワークの目的として、以下のたたき台から検討をスタートすることとしたい。

「持続可能な社会づくりを担う多世代・多分野の人づくりを多様なステークホルダーの連携・協働によって進め、もって SDGs の達成や地域課題の解決に貢献する。」

(注 1) 現行の「ESD 推進ネットワーク」の目的について

「構築に向けて」では、ESD 推進ネットワークの目的は、「持続可能な社会の実現に向け、ESD に関わる多様な主体が、地域における取組を核としつつ、様々なレベルで分野横断的に協働・連携して ESD を推進する。」こととされている。(下線は本資料において追加)

## 論点 2. ESD 推進ネットワークのターゲティングとアプローチ方法

ESD 推進ネットワークの目的のもとに定めるべき目標設定や対象ごとのアプローチについて以下が挙げられた。

### 1. ESD 推進ネットワークの目標のあり方について（注 2）

#### 指摘事項

- ① ESD 推進ネットワークの目的のもとに、ネットワークを通じて目標期間内に具体的に何をするのかを明確にする必要がある。
- ② 総花的にならずに期間内に重点的に取り組むことを目標とするのがよい。
- ③ 現行の ESD 推進ネットワークの 4 つの機能（情報、支援体制、ネットワーク形成・学び合いの場、人材育成）を軸に、次の段階では整理しなおす必要がある。
- ④ ESD 推進ネットワークの活動の評価について十分に検討する必要がある。
  - ✓ ESD 推進ネットワークの目的のもとに定めるいくつかの目標は、具体的、計測可能で、「定量的に評価」しやすいことが望ましい。他方、定量的なデータのみならず数字になじまない定性的なデータにも ESD 推進ネットワークの評価に使うべきものがあるはず。
  - ✓ 目的・目標を明確にするためにも、ESD 推進ネットワークにおける「持続可能な社会」をやさしいことばで表現できるよう議論を深めていくことも必要ではないだろうか。
- ⑤ 目標と目指すべき成果に関わるプロセスの検討が必要だ。
  - ✓ ESD 推進ネットワークの具体的な目標と目指すべき成果についての合意形成を、どのような主体とどのように進めていくのかプロセスの検討をする必要がある。
  - ✓ 全国センター、各地方 ESD 活動支援センター、地域 ESD 拠点、協力団体等にとって、目標のもとに期限までに生み出したい変化を起こすために誰と協働して何をどのように進めるのが効果的か、ESD 推進ネットワークを構成する主体毎に、バックキャスティングで戦略を作っていく必要がある。

### 2. ターゲティングとアプローチについて

#### 考え方

- ① ESD for 2030 において、政策的支援、機関包括型アプローチ、教育者、ユース、地域コミュニティという 5 つの優先行動分野を踏まえ、それらの間の連携が重視されることを考慮すれば、ターゲットは絞るということ

でなく明確にするという考え方に立つ必要がある。

- ② **ESD 推進ネットワーク**のなかに、個別の目標毎にそれぞれのサブネットワークが形成されている状況が望ましい。それぞれのサブネットワークのなかで、具体的な活動が行われ、成果が「可視化」され共有されている状態になるよう諸活動が奨励されているイメージ。
- ③ どのようなターゲットに対して、どのような分野・テーマを扱うにしても、**ESD**、**SDGs**の基本的考え方を尊重し、分野・課題間のつながり、統合性を重要視することが重要である。

#### ターゲットを定めた推進

- ① これまで **ESD 推進ネットワーク**で大きな役割を担ってきた公益法人・**NGO/NPO**、教育行政、高等教育機関等との連携を継続発展させつつ、企業との連携、自治体との連携を重点的に強化する必要がある。
- ② 「持続可能な社会の創り手」の育成が盛り込まれた新学習指導要領を踏まえた多様なステークホルダーとの連携・協働による取組の質的向上のための人材は重要なターゲットであり、これまでの活動成果を生かしたモデル構築やその普及が期待される。
- ③ **SDGs**の目指す環境・経済・社会の統合的向上という観点から「地域循環共生圏」の考え方に立つ人材をターゲットとした場合、その育成や活用、次世代への普及等に貢献する仕組みを作るとよい。
- ④ その他、**SDGs**達成に向けた各種施策や我が国の課題解決に向けた施策（地方創生、多文化共生等）への地域での貢献の在り方を模索し、具体化できるとよい。

#### これまでの ESD 推進ネットワークの取り組みを効果的にいかせると想定される当面の取組テーマの検討

- ① **ESD 推進ネットワーク**を構成する各主体の自発的な活動を尊重しつつ、また、上記のターゲットを意識した上で、これまでの地域 **ESD** 拠点、地方センター、全国センター及び全国規模の **ESD 推進団体**（協力団体）との連携等、**ESD 推進ネットワーク**の強み等を考慮すると、共通の基盤に立って大きなインパクトを生み出すことが期待できる取組テーマを決めて協働して取り組むことが効果的と考えられる。
- ② そのような取組テーマとして、以下のような例が指摘されている。これらのテーマは、地方センターが地域 **ESD** 拠点や他のマルチステークホルダーとの連携・協力のもとに行ってきた活動に基づき、ユースを含む多世代にリーチすることに対して **ESD 推進ネットワーク**の強みがいかにせるテーマ、活動を通じて人材の育成につなげ、かつ、人材の活動の場を広げられるテーマとして有効と考えられるテーマである。

|   | 取組のテーマ                                           | 活動の背景・活動概要（例）                                                                                                                                                                                                                                    | 期待される効果・成果<br>○初年度<br>□5年後 |
|---|--------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|
| A | 差し迫った課題である <u>気候変動問題</u> への対応                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域 ESD 拠点登録団体が運営している各地の地球温暖化防止活動推進センターが 10 数か所ある。</li> <li>・これらを活用して他の地域 ESD 拠点と連携して地球温暖化対策教材を地域の環境、経済、社会の側面を統合的にとらえる ESD 的な観点から見直し、整理・活用を図る。また、好事例を普及する活動を行う。</li> </ul>                                |                            |
| B | 持続可能な社会づくりにむけた子ども・大人の <u>消費行動</u> の変容を促す人材・組織の育成 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域 ESD 拠点においては、地域の多様なステークホルダーとの連携のもと、食品ロス、ゴミ削減、廃プラスチック、エシカル消費、フェアトレード等、持続可能な社会づくりに向けた消費行動の変容を促す取組み数多く行われておりユース世代の参加も多い。</li> <li>・地域 ESD 拠点に登録している企業にも特に関心の高い分野であることから、関係者間の連携強化による具体的な活動を行う。</li> </ul> |                            |
| C | <u>防災・減災・復興</u> に役立つネットワークづくりと人材・組織の育成           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域 ESD 拠点登録団体には地域の多文化共生を進める役割をしているところが多く、環境を考慮したレジリエントな地域づくりの観点から通常時の地域の課題解決のための学び合いのネットワークを防災・減災・復興のネットワークにつなげることの重</li> </ul>                                                                          |                            |

|   |                        |                                                                                                                                              |  |
|---|------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
|   |                        | <p>要性が認識されている。防災・減災・復興にも役立つ平常時のネットワークづくりを進め、それを通じて人材を育成する。</p> <p>・地域 ESD 拠点間の県境を越えた連携が実際の地域の復興に生かされた例もあり、地域を超えたネットワークのネットワークにつなげる活動も必要。</p> |  |
| D | <u>自然保護／<br/>生物多様性</u> |                                                                                                                                              |  |
| E |                        |                                                                                                                                              |  |
| F |                        |                                                                                                                                              |  |

(注 2) 現行の「ESD 推進ネットワーク」の目標について

ESD 推進ネットワークは 4つの機能（情報、支援体制、学び合いのためのネットワーク、人材育成）を持つこととされた。「構築に向けて」解説資料では、ESD 推進ネットワークは『「ESD 国内実施計画」をはじめとする国内の枠組み、及び「ESD に関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）」、「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ（SDGs）」等国際的枠組みを活かしながら、ネットワークの目的達成に向けて、ESD の質的向上、量的拡大を図ることにより、持続可能な開発のために求められる原則、価値観、行動が、教育や学び・人づくり・地域づくりのあらゆる場において主流化するよう、以下の目標を掲げる。』とされ、ESD 推進ネットワークの 4つの機能ごとに以下の目標が立てられている。

1. ESD 活動を支援するために有益な情報の収集、整理、蓄積、共有を進める。（情報）
2. 現場のニーズを反映した ESD 活動の支援体制を整備する。（支援体制）
3. ESD 実践の学び合いを可能とする重層的なネットワークを形成する。  
（ネットワーク形成・学び合いの場）

4. 様々な活動、研修、学び合い等を通じて、学校教育、社会教育それぞれにおいて、また、学校、社会教育施設、大学、職場、地域等において、ESD を推進する人材の育成を進める。(人材育成)

また、ESD 活動支援センターのリーフレットでは、ESD 推進ネットワークは、「ESD の広がり」と深まりを通じて、地域の諸課題の解決と教育の質の向上、SDGs 達成に向けた意識・行動変革を進めます。」とある。

(下線は本資料において追加)

### その他の指摘事項

#### 1. 「ESD 推進ネットワーク」への期待

##### 全体像

- 「持続可能な社会」の価値観を主流化していくネットワーク
- 具体的なビジョンを共有するネットワーク
- SDGs 国内実施指針改訂版でも強調されている多様なステークホルダーの「行動」を促進するネットワーク
- 個人の行動変容と社会の変化をセットとしてとらえたうえで、持続可能な社会にむけて変容を促すネットワーク
- 持続可能な社会への構造的変更に向けて多様な分野で力量を持つ人材・組織を育成するネットワーク
- 多様なステークホルダー間の連携・協働を進め、そういった人材・組織の活動の場を広げることができるネットワーク

##### 地域への視点

- SDGs 達成に向けた各種施策や我が国の課題解決に向けた施策(例: 地方創生、多文化共生等)の実施に現場から貢献するネットワーク
- 地域の課題解決の加速要因となり、具体的に課題解決に貢献できるネットワーク
- 地域の特色を生かした実践が促進され地域の課題解決に対応する事業・プロジェクトを生み出せるネットワーク

##### 特徴

- 行政や分野のタテ割を超えてつながるネットワーク
- 同世代や世代間の学び合いを促進し、継承・発展するネットワーク
- マルチチャネルな双方向のネットワーク(イメージ:「放送」から相互「通信」へ)

#### 2. SDGs との関連について

- ESD for 2030 をふまえ、ESD が SDGs 達成に貢献する人材の育成（人材を育成する人材の育成 - **trainer's training** を含む）であること、及び、SDG と学びの現場をリンクすることで学びの質を高めることをアピールする必要がある。
- SDGs の達成や地域課題解決に ESD を通じて具体的に貢献することを明確に示す必要がある。
- SDGs の達成に取り組む政府、ビジネス、ファイナンス、市民社会、消費者、地域の住民や NGO／NPO、労働組合、次世代、教育機関、研究機関、地方自治体、議会等の多様な主体（ステークホルダー）との協力・連携を強化する必要がある。
- SDGs の基盤をなす考え方である普遍性、包摂性（誰ひとり取り残さない）、参画性、統合性（環境・経済・社会の統合的向上）、透明性といった理念を広く社会に浸透させる必要がある。
- SDGs 達成が「自分事」化される主体形成を、ESD における広い意味での「E」ととらえる必要がある。
- SDGs との関連のなかで ESD 推進ネットワーク、またその構成要素である ESD 活動支援センター（全国・地方）や地域 ESD 活動推進拠点（地域 ESD 拠点）、協力団体等の位置づけを明確にする必要がある。

## 参考

## 地域 ESD 活動推進拠点等の取組

以下は、地域 ESD 活動推進拠点（地域 ESD 拠点）の登録申込書及び年次アンケート及び全国フォーラム発表事例（地域 ESD 拠点には登録していないが ESD 活動支援センター（全国・地方）と協力関係にある団体による）からキーワードを抽出し、全国センターにて、①地域・社会の課題解決に関すること及び②教育の質の向上に関することに二分し、さらにいくつかの категорияに分けて便宜的に分類したものである。

実際の活動の中では、環境、経済、社会の統合的向上を意識している活動、あるいは地域の課題解決と教育の質の向上の統合の試みなど、分野横断的な活動が多いと思われる。

## 1. 地域・社会の課題解決に関すること

## 環境

- 地域の環境保全・普及啓発（希少野生動植物保護・生息生育地、水辺、海岸砂丘、干潟、湿地、流域、森里川海、地下水、等）
- 生物多様性
- 地球温暖化防止活動
- ゴミ減量・リサイクル
- 資源循環の重要性の啓発とそれを実現させるための技術
- 廃プラスチック・海洋ゴミ
- 下水道に関連する水質保全事業
- グリーンエネルギー
- 獣害対策
- 公害対策と地域再生
- 防災・減災
- 環境団体、事業者、研究者、行政等あらゆる主体による環境パートナーシップ構築

## 経済

- SDGs を組み込んだ企業経営
- 企業による最大限の安全と最小限の環境負荷の製品サイクルづくり（企業によるつくる責任つかう責任）
- 環境と産業の矛盾なき共存
- 持続可能な森林経営
- 地産・地消
- 森里川海のつながりの可視化と林・農・漁業を中心とする産業の活性化・森

## 林と地域の活性化

- 商店街の活性化
- 消費者市民社会
- 地域資源や魅力を活用したグローバルビジネスの実践研究
- 教育旅行・エコツーリズム
- 科学技術と社会を橋渡しする次世代リーダー育成

## 社会

- 郷土理解・郷土愛
- 世代間交流
- 人口減少・高齢化
- 移住促進
- 子育て支援
- 福祉・高齢者福祉
- 人権
- 共生のまちづくり・多様性を共に支え合う社会づくり
- 災害時に備え中間支援の拠点の形成と人材の育成・防災を通じた人づくり
- 観光と結びつけた地域の活性化
- 伝統文化の継承
- 伝統芸能・伝統文化と結びつけた地域の活性化
- 国際協力・国際交流を通じた地域づくり
- 平和への取組

## 複合

- 様々な地域課題の解決
- 環境や貧困、ジェンダーなど地球課題について地域での取組
- 持続的な開発を考え実現していくための人づくり・地域づくり
- 地域課題の解決、ESD、SDGs 達成に向けた地域での活動にユース含めより多くの多様な主体が連携して取り組む仕組み・仕掛けづくり
- 「つなぐ」場づくり
- 持続可能な地域の市民社会づくり

## 2. 教育の質の向上に関すること

## 教育の目標に関すること

- 学校の全ての教育活動に「持続可能な社会の担い手を育てる」視点を入れた取組
- Think globally, act locally の視点による行動できる児童・生徒の育成

- 児童・生徒の科学的思考の育成
- グローバルな視点を持った児童・生徒の育成
- 児童・生徒の自己有用感の向上
- 体験活動（集団宿泊訓練、野外活動、自然観察等）を通じた青少年の自立

#### 取組内容・分野に関すること

- 学校向けの ESD 環境プログラムの構築と実践
- 自然資源・伝統社会等の地域資源をいかした ESD の普及・推進
- 生徒自らが社会課題を見つけ解決に向けた活動を社会とつながりながら実践する教育課程
- 児童生徒が地域の食に関する文化を通して地域の魅力を学び、自ら考え行動できる食育
- 流域の産業・人のつながりを重視した ESD 教材の開発
- 郷土愛の醸成や地域に対する理解の向上
- 防災を中心に地域とのかかわりを持つことで生徒の意欲増進
- 青少年対象に行う体験活動の意義の捉え直し、持続可能な開発や環境保全に関する教育の推進

#### 人材の育成に関すること

- ESD が指導できる教員の養成
- ESD の理論的・実践的諸課題に対するソリューション及び授業に関するコンサルテーション

#### 学校・地域・企業等の連携に関すること

- 学校が求める活動を地域が提供するためのコーディネート（学校支援地域本部）
- 地域の資料館（社会教育施設）を利用した学習と学習発表の場の提供
- 企業グループと自治体等が共同で心豊かでサステナブルなライフスタイルを実現するための体験型環境教育の実施
- 学校向け出張授業プログラムを企業の社内教育と連携して開発・実施
- ユネスコスクール支援・学校支援
- 多世代の自発的学びの支援
- 企業による学ぶ機会と場の提供